

西部地震
インド大地
インド大

「被災者に役立てて」

AMDA 救援物資を箱詰め

インド西部大地震の被災地へ医療チームを派遣するAMDA（アジア医師連絡協議会）は三十一日、現地

での救援活動に役立ててもらおうと、岡山市をはじめ全国から提供を受けた毛布や飲料水などの救援物資を段ボール箱に詰め、現地に

運ぶ作業をした。一日、貨物専用機に約三十トンの物資を積み、医療チームと一緒に岡山空港を出発する。

AMDAによると、医療チームが派遣されるアンジュヤールは震源地に近い町ブジから南東約四十キロ。町全体が崩壊し、多くの負傷者

が出ているという。ガーゼや消毒液などの医療品や食料、重機が不足しているため、AMDAはパワースコベル二台と被災者の住居用テント十組を購入。岡山市からは水の缶詰や乾パン、全国からは毛布約千枚が寄せられた。

岡山市日応寺の岡山空港内の格納庫では、AMDAのボランティアら約三十人が、毛布などの救援物資を次々と段ボール箱に詰めた。学生の重西薫さん（三〇）は「インドの被災者に少し

でも役に立てば」と話していた。

AMDAはすでに九人の医療チームを現地に派遣し

ており、今回は調整員二人と看護婦一人を派遣。また、岡山市は支援策として市民から義援金を募る。



インドの被災地に送る毛布を段ボール箱に詰めるAMDAのボランティアら岡山日応寺の岡山空港内で